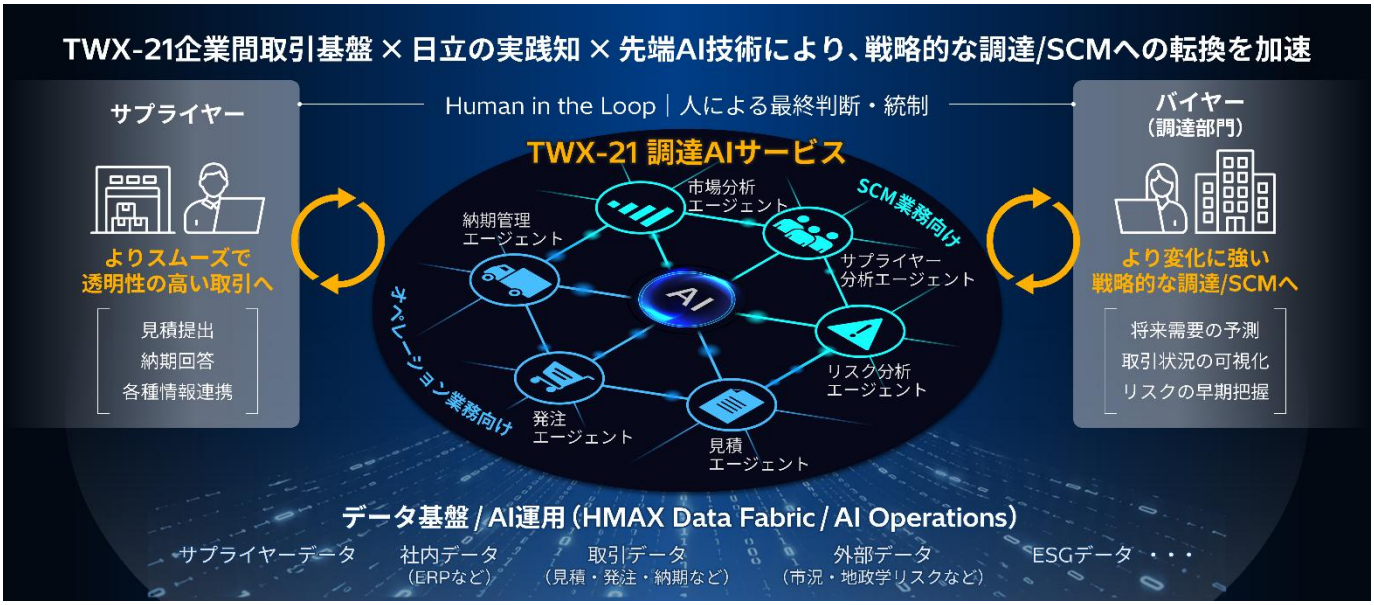
Press Release

2026 年 11 月 9 日
株式会社日立製作所

戦略的な調達・サプライチェーンマネジメントへの転換を加速する「TWX-21 調達 AI サービス」を HMAX Industry として提供開始

日立の現場の実践知を組み込んだ AI エージェントにより、自社適用において納期管理業務の作業時間を最大 65%削減



TWX-21 調達AIサービスのイメージ図

株式会社日立製作所(以下、日立)は、AI エージェントを活用し、調達をはじめとするサプライチェーンマネジメント(SCM)業務を自律化・高度化する「TWX-21 調達 AI サービス(以下、調達 AI)」を HMAX Industry のラインアップとして本日から提供開始します。調達 AI は、変化の激しい市場環境において、迅速な調達方針の立案と実行による戦略的な調達・SCM への転換を強力に支援するものです。

調達 AI は、約 87,000 社の企業間取引を支えるクラウドサービス TWX-21 の強固な企業間取引基盤に、日立が社会インフラを支える幅広い事業の調達・SCM 領域で培ってきた、取引先管理や納期・供給リスクの見極め、取引先との調整・交渉などの実践知と先進的な AI を融合したものです。日立の実践知を組み込んだ複数の AI エージェントが連動し自律的に業務を遂行することで、これまで人手に依存してきた購買管理など調達オペレーション業務を代替・支援するとともに、サプライチェーンリスクの予測・分析を通じて意思決定の高度化を実現するサービスを提供していきます。これにより、サプライチェーン上のリスクや事業への影響を先読みし、取引先の多角化などの施策を迅速に講じることで、市場環境の変化に強い戦略的な調達・サプライチェーンマネジメントへの転換を支援します。

今回、提供開始する「調達 AI(調達オペレーション業務向け)」は、見積比較や発注、納期管理などの購買業務において、AI エージェントにお客さま固有の調達方針や業務ルールなどを反映することで、各社の調達現場にあわせた業務の自律化を実現します。日立は、人手作業の工数比率が高いとされる納期管理業務において、本サービスを自社に先行適用した結果、複数の AI エージェントが遅延リスクの早期発見から取引先への納期交渉支援までを自律的に担い、最終

判断は調達担当者が行う Human in the Loop の統制を維持しながら、納期管理にかかる作業時間を最大 65％削減[*1] できることを確認しました。

また、2026 年度中に、自然災害や地政学リスクなどが事業に及ぼす影響や想定損失を AI で予測・可視化する「調達 AI(SCM 業務向け)」を提供するなど、SCM 領域における意思決定を高度化するサービスを順次拡充していきます。

日立は、産業分野向けに、プロダクトの豊富なインストールベース(デジタライズドアセット)のデータにドメインナレッジと先進 AI を組み合わせた次世代ソリューション群 HMAX Industry に注力しています。フィジカル AI のリーディングカンパニーをめざし、これらをコアとするインダストリアルソリューションの提供を通じて、お客さまのライフタイムバリューを最大化し、グローバルに産業を変革することで、豊かな社会の実現に貢献します。

*1 特定の納期管理業務を対象に、従来の人手による作業時間と比較した日立試算。お客さまの適用業務や利用環境により効果は異なります。

背景

近年、製造業を取り巻くサプライチェーンは、地政学リスクや自然災害、需要変動、人手不足などにより不確実性が増しています。そのため、調達部門には、物品やサービスの調達から支払いまでのオペレーション業務に加え、サプライチェーンリスクをいち早く捉え、事業影響を見極めながら取引先の多角化などの施策を迅速に判断・実行する戦略的な調達・サプライチェーンマネジメントがこれまで以上に求められています。一方、調達部門のオペレーション業務は、ERP[*2] や EDI[*3] などの基幹システムが普及した現在も、サプライヤーとの交渉、社内外関係者との調整、検収・支払確認など、システムだけでは完結しない多くの作業が依然として人手に依存しています。こうした課題に対し、AI エージェントを活用して、これらの作業を自律化することが期待されていますが、多数の取引先との連携が必要である調達・SCM 業務では、企業をまたいでセキュアに AI を活用できる環境の整備が求められています。

こうした背景を踏まえ、日立は、約 30 年にわたり安心・安全な企業間取引の場として提供してきた TWX-21 に、日立自身の調達・SCM 現場で培った実践知と AI 技術を融合し、調達・SCM 業務を自律化・高度化する「TWX-21 調達 AI サービス」として進化させます。今回、第一弾として「調達 AI(調達オペレーション業務向け)」の提供を開始しました。

*2 Enterprise Resource Planning：企業の会計、人事、調達、生産、販売などの基幹業務を統合的に管理するシステム

*3 Electronic Data Interchange：企業間で受発注や納品などのデータを電子的に交換する仕組み

調達 AI(調達オペレーション業務向け)の特長

1. 日立の実践知を組み込んだ実務に即した AI エージェント

日立グループ内の調達現場で実践と改善を重ね、実務に即して磨き上げた AI エージェントを提供します。「取引先ごとの交渉優先度・頻度制御」や「納期管理で着目すべき指標・分析軸・改善アクションの見極め」など調達現場で長年培ってきた知見を体系化し、きめ細やかな判断条件で柔軟に設計することが可能です。さらに、AI の自律的な業務遂行状況を確認するダッシュボードで可視化し、担当者が処理状況を確認できるようにすることで、AI による自律化と人による適切な統制を両立します。

2. お客さま固有の調達方針や業務ルールに柔軟に対応

お客さま独自の調達方針や取引先との関係性、業種特有の業務ルールなどを反映し、各社の調達現場に合わせて柔軟にカスタマイズ・最適化することが可能です。これにより、お客さまは一から AI エージェントを構築することなく、実務に即した AI を迅速に導入できます。

3. 市場環境に応じた継続的な進化

AI エージェントの企画から設計、開発、検証まで各工程に AI を活用する、AI ネイティブな開発モデルを採用することで、開発の迅速化と品質の確保を両立します。また、現場の暗黙知やデータを統合する「HMAX Data Fabric[*4]」と安全な自律運用を支える「HMAX AI Operations[*4]」上で、市場環境の変化や日々の業務で得られる知見や経験を AI エージェントの改善に継続的に反映することで、お客さまの調達業務の進化を支えます。

*4 2026 年 9 月 3 日プレスリリース「現場全体の自律的な最適化に向け、HMAX Data Fabric など新たな基盤・運用管理ソリューションを提供開始：日立」

「TWX-21 調達 AI サービス」の価格と提供時期

サービス名	提供開始時期	サービス内容	提供価格
調達 AI サービス(調達オペレーション業務向け)	2026 年 11 月 9 日	日立の実践知を組み込んだ複数の AI エージェントが自律的に連動し、見積比較や発注、納期管理などの購買業務を効率化するサービス	個別見積り

関連 Web サイト

TWX-21 調達 AI サービス

https://www.twx-21.hitachi.ne.jp/contents/service/procurement_ai/index.html?nr=261109

HMAX Industry

https://www.hitachi.co.jp/products/infrastructure/connective-industries/hmax-industry/index.html?nr=261109

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所

AI&ソフトウェアサービスビジネスユニット

お問い合わせフォーム

https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/